

1. 趣 旨

人生 100 年時代に向け、地域の生涯学習拠点である公民館が実施する地域振興や絆づくりなど地域課題の解決に向けたモデル的な「学び」の活動を支援

2. 事業概要（富山県公民館連合会へ委託 2, 000 千円、実施公民館・団体に再委託）

	【地域振興型】	【体験交流型】
目 的	地域の高齢化や魅力発信など地域課題をテーマとした実践的な学習会や現地調査、グループワークなどを通じて地域振興の活動につなげていく	地域の若い親子世代と高齢者世代の交流を通じた自然体験やふるさと学習を行うことにより、地域コミュニティの強化や絆づくりにつなげる
館 数	5 館	28 館
再委託料	100 千円／館	50 千円／館

3. 事業展開例

（１）【地域振興型】

①砺波市立梅檀山公民館

○地域課題：地区住民の危機管理意識の高揚。地域の危険箇所の洗い出し、周知

○活動内容：地震体験車による疑似体験をきっかけとした学習会やグループワーク

実施日	内 容		参加人数
6 月 30 日 （日）	学習会	地震体験車による地震疑似体験、煙体験、AED 体験 （食改からの防災食の講演と防災食の提供）	150 名
7 月 14 日 （日）	学習会 フィールド ワーク	砺波市総務課からの防災に関する出前講座 地区の危険箇所の巡回 一次避難場所の備品チェック	45 名
7 月 14 日 （日）	避難訓練	避難行動要支援者の避難訓練 避難の際の持ち物チェック	60 名
7 月 23 日 （火）	活動の まとめ	今までの活動を振り返り、グループ討議・発表（危険箇所、避難の際の持ち物、備品等）	45 名



【危険箇所の巡回】



【避難行動要支援者の避難訓練】



【グループ討議と発表】

○成果

- ・地震体験車による地震疑似体験等には、地区のほぼ全住民が参加した。加えて、避難行動要支援者の避難訓練等実践的な活動を実施した。当初、グループ討議・発表は秋に開催する予定であったが、地区住民の要望により 7 月に前倒しするなど、危機管理に対する意識の高まりが見られた。
- ・危険箇所の洗い出しを行い、それに対する住民の意識の統一が図られた。危険箇所を地図にまとめ各自治公民館で掲示し、危険箇所の見直しやその対策を講じることに活用している。

②黒部市立東布施公民館

○地域課題：地域の魅力再発見、発信

○活動内容：地域の魅力再発見のための学習会及びマップづくり
（金沢大学インターンシップ生と一緒に）



【三大祭りの現地学習会】



【布施谷健康ウォーク】



【大学生による地域の魅力報告会】

実施日	内 容		参加人数
7 月 9 日 （火）	地域を知る 学習会	自分が住む布施谷（東布施）を知る講座 ～布施谷の石器時代から中世まで～ 講師：日本黒部学会 八尾隆夫 氏	30 人
7 月 16 日 （火）		自分が住む布施谷（東布施）を知る講座 ～布施谷の中世から現在まで～ 講師：日本黒部学会 八尾隆夫 氏	29 人
7 月 28 日 （日）	地域の三大 祭りの 現地学習会	中陣ニブ流し見学と学習会 講師：保存会関係者	7 人
8 月 7 日 （水）		尾山の七夕流し見学と学習会 講師：石川幹夫東布施公民館長	6 人
8 月 14 日 （水）		朴谷の獅子舞見学と学習会 講師：獅子舞保存会関係者	5 人
8 月 20 日 （火）	布施谷の 魅力再発見 （大学生と ともに）	東布施保育所訪問	約 30 人
8 月 24 日 （土）		ふれあい流しそうめん	43 人
8 月 25 日 （日）		布施谷健康ウォーク大会	50 人
8 月 30 日 （金）		そば打ち道場	18 人
8 月 31 日 （土）	活動の まとめ	大学生が感じた東布施地区の魅力を紹介 大学生が製作した地域の特色を活かしたマ ップの発表	20 人
11 月 （予定）	地域を知る 学習会	自分が住む布施谷（東布施）を知る講座 ～僧ヶ岳について～ 講師：日本黒部学会 八尾隆夫 氏 僧ヶ岳保勝会	—

新 はつらつ公民館学び支援事業（2）

○関連新聞記事



金大生と流しそうめん

黒部・東布施地区
黒部市布施谷活性化推進協議会（山本達雄会長）は24日、同市東布施公民館で同地区をインターネットで訪れている金大生4人と「流しそうめん」を実施した。同地区は夏休み期間中に金大生を受け入れて10年目となり、4人は先輩が築いてきた住民との信頼関係を感じながら交流した。
学生は地域創造学類2年の清野溪太郎さん、永田裕果の報告会を開く。

令和元年8月25日
富山新聞



黒部 黒部市の布施谷活性化推進協議会（山本達雄会長）は30日、東布施公民館で「そば打ち体験」を開き、まちづくりインターンシップとして受け入れている金沢大生が地元特産のそばでそば打ちを体験した。
【Webcam写真3枚】
協議会は9年前から、金沢大生に住民との交流を通して地域の魅力を発信してもらい、地域の活力につなげる取り組みを続けている。今年は2年生4人が18日～9月1日の日程で訪れ、健康ウォークや流しそうめん教室への参加や、地区の見学を紹介するマップ作りなどに取り組んでいる。

金沢大生がそば打ち体験

布施谷地区 地域住民と交流
室への参加や、地区の見学を紹介するマップ作りなどに取り組んでいる。学生たちは、布施谷を活性化委員会の岩田善治会長や協議会会員の指導でそば粉をこね、めん棒で延ばして包丁で切った。そばはにじして、東布施生活協賛推進員が用意した夏野菜の天ぷらと一緒に味わった。村田理彩さんは「地域の皆さんが優しい。これまでのイベントも大勢が集まって楽しかった」と話した。31日は報告会を行う。

令和元年8月31日
北日本新聞

○活動内容及び計画

実施日	内 容	参加人数
5月23日（木）	こども自然ふれあい体験（園児対象） アユの稚魚を約2,000匹放流	約100名
6月11日（火）	坪野川の生態系を学ぶ観察会（小学生と保護者対象） ホタルの生態や生息環境を学ぶ ホタルの観察会の実施	約30名
7月26日（金）	夏休み自然体験学習（小学4年生と保護者対象） 身近な生き物や植物を観察し、地元の自然を学んだ。	約20名
8月4日（日）	坪野川で川遊び（小学生と保護者対象） 川の自然について学びゴミ拾いを行った。網で水の中に生息する生き物を捕まえた。	57名
2月（予定）	「もちつき」の体験会（小学生対象） 長寿会の指導により、臼と杵を使用	—
3月（予定）	サケ稚魚放流体験（小学5年生と保護者対象） サケの生態を学び、稚魚を放流	—

○関連新聞記事

婦中でも稚アユ

富山 園児対象の「こども自然ふれあい体験」が23日、富山市婦中町砂子田の坪野川親水広場で開かれた。速星幼稚園、みかど保育園、ささくら保育園の年長児計約100人がアユの稚魚を放流した＝写真。

速星地区ふるさとづくり推進協議会（山口吉弘会長）と速星公民館（土田隆館長）が毎年開催。山口会長が「体験を家に帰って話してほしい」とあいさつし、事業に協力する藤田信弥富山漁協組合長が「アユが生息するきれいな川を守って」と呼び掛けた。

園児は速星長寿会員に手伝ってもらいながら体長約12cmの稚魚約2000匹を放流し、「元気でね」「行ってらっしゃい」と声を掛けた。公民館では、保育士らが紙芝居風の劇でアユの生態を紹介した。



令和元年5月24日（金）
北日本新聞

「きれい」ホタルに歓声 速星 坪野川で観察会



富山 富山市婦中町速星地区を流れる坪野川の生態系を学ぶ観察会が11日夜に開かれた。速星小学校児童と保護者ら約30人が山沿いのホタルを観察し、生息に必要な自然環境を守る思いを新たにしました。
速星地区ふるさとづくり推進協議会（山口吉弘会長）が毎年開催している。速星公民館で学習会があり、布村理元町科学博物館館長がクイズを交えてホタルの生態や生息環境などを説明。同公民館の村上三三主事は、水質改善や稚魚放流などで豊かな生態系が戻ってきていると紹介した。
同公民館裏の川沿いに移動して歩くと、草むらや木々からホタルの光が見え、子どもたちは「きれい」と歓声を上げた。

令和元年6月13日（木）
北日本新聞

○成果

- ・「地域を知る学習会」には、公民館活動にあまり参加されない方を含め、予想以上に多くの参加があった。また、自分たちが住んでいる地域のことをもっと詳しく知りたいというニーズがあることがわかった。
- ・外部人材である大学生から地元の特色等を紹介してもらうことにより、住民が地域のよさを再認識することができた。統廃合により小学校がなくなり活気がなくなりつつある中で、地元への愛着等を高め、活気へとつなげていくことが可能である。
- ・マップ作成により、地域のよさを発信することができる。

（2）【体験交流型】

○富山市立速星公民館

○事業の目的

- ・坪野川自然体験事業、サケ・アユ稚魚放流事業
子供たちに郷土の川の自然環境を大切にすることを育む。
- ・もちつき体験事業
子供たちに日本の古き伝統を学んでもらうことと長寿会メンバーと小学生がふれあい世代間交流を行う。

○成果（平成30年度）

- ・親子で郷土の川とそこに生息する生き物を大切にすることを学び、自然を大切にする心を育んだ。
- ・伝統文化にふれながら、世代間交流を図ることができた。

4. 来年度への取り組みの方向性

○事業の効果を検証し、実施公民館数を増やす等事業の拡充も視野に入れながら継続する。